寝たきり患者に統一した口腔ケア実施の定着を目指した取り組み

大網白里市立国保大網病院

柏木琴葉　小倉恵美　相内千枝

研究背景・目的

当病棟には急性期～終末期、回復期まで様々な患者が入院している。現在では入院患者の多くを高齢者が占めている状態である。その為介助を必要とする患者が多く、陰部洗浄・清拭といった看護ケアは日常的に実施されている。しかし、口腔ケアに関しては、同じように日常必要なケアであるにも関わらず、省略化され、看護師によっても実施状況にばらつきがあるような現状で、統一した継続的なケアが実施されていない状況にある。口腔ケアの実施は、術後の肺炎、高齢者に多い誤嚥性肺炎の予防にも効果的である。口腔内を清潔に保つことで食事に対する楽しみや、認知症予防など様々な刺激につながると考える。
今回、看護師の口腔ケアの実施状況を把握し、問題点を明らかにした上で、口腔ケアアセスメントスケールを用いて統一したケアの実施方法を記載した資料を作成・勉強会を通して周知する。その後実践につなげることで患者に合った口腔ケアを実施することができ、質の高い看護を提供につなげる。

方法

1.対象：東病棟看護師、口腔ケア介助を必要とする患者2名程度
2.期間：倫理審査委員会承認後から2023年度内
3. アンケート調査：
アンケート内容
1）東病棟看護師に対し口腔ケアの実施に関するアンケートを実施
2）アンケート結果を集計後、口腔ケアに関する資料を作成、作成した資料を用いてスタッフに対して勉強会を実施。患者数名を対象に口腔内状態の評価も同時に行う（2週間程度）
4.倫理的配慮：
調査対象者には、回答により不利益を被ることはないこと、同意を撤回したい場合はいつでもできることを、書面をもって同意を得る。同意を得て回収したアンケートは、書面・USBで保管し院内から持ち出さず、研究終了後速やかに破棄を行う。